

大学・高専機能強化支援事業（支援 2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F117110105400	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
大学名	北陸先端科学技術大学院大学	設置区分	国立	事業計画名	次世代AI社会の創成を担う高度情報専門人材の育成
学校種	大学院大学	都道府県	石川		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和6年度	【情報系組織の入学定員】 先端科学技術研究科先端科学技術専攻 博士前期課程（入学定員104名）、博士後期課程（入学定員29名） 12月 先端科学技術研究科先端科学技術専攻高度情報専門人材育成コース（博士前期課程・博士後期課程）収容定員に係る学則変更届	【情報系組織の入学定員】 先端科学技術研究科先端科学技術専攻 博士前期課程（入学定員104名）、博士後期課程（入学定員29名） 3月 先端科学技術研究科先端科学技術専攻高度情報専門人材育成コース（博士前期課程・博士後期課程）収容定員に係る学則変更届	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	① 10月 JAIST×Hコース学生数増のための研究棟改修工事 ② JAIST×Hコースのための教員の確保 10月（インタラクション担当教授 1名 採用） 11月（サイバーセキュリティ担当実務家教授 1名 採用） ③ 10月 JAIST×Hコースのための教育環境整備 （演習用測定装置 購入）	①10月～3月 JAIST×Hコース学生数増のための研究棟改修工事施行（令和7年2月に竣工） ②JAIST×Hコースのための教員体制の整備 10月（インタラクション担当教授 1名採用） 11月（サイバーセキュリティ担当実務家教授 1名 採用） ③10月～2月 JAIST×Hコースのための教育環境整備のための演習用測定装置購入	左記のように、計画に沿って三つの取り組み（①～③）を実施できたため 取り組み事項③に関しては、申請時に予想できなかった、物価高騰に伴う機器の価格向上や輸入に伴う機器の入手困難が生じたため、一部、対応に苦慮したところがあった。次年度は早期に確認のうえ、輸入が必要なものに関しては早急な購入手続き等を行う予定である。	
令和7年度	10月 先端科学技術研究科先端科学技術専攻高度情報専門人材育成コース 博士前期課程設置（入学定員15名）、博士後期課程設置（入学定員5名）		R7年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 JAIST×Hコース学生数増のための研究棟改修工事 ② JAIST×Hコースのための教員の確保 4月（ヒューマン担当准教授 1名 採用） 10月（AI担当准教授 1名 採用） （AI担当実務家准教授 1名 採用） （インタラクション担当教授 1名 継続雇用） （サイバーセキュリティ担当実務家教授 1名 継続雇用） ③ 4月 JAIST×Hコースのための教育環境整備 （AI向けPCサーバー 購入） （演習用測定装置 購入） ④ 10月 JAIST×Hコースのための教員の確保 （学外者が授業科目AI倫理IIとデータサイエンスIIの一部を担当）			
令和8年度	12月 先端科学技術研究科先端科学技術専攻高度情報専門人材育成コース（博士後期課程）収容定員に係る学則変更届		R8年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 JAIST×Hコースのための教員の確保 （インタラクション担当准教授 1名 採用） （インタラクション担当教授 1名 継続雇用） （サイバーセキュリティ担当実務家教授 1名 継続雇用） （AI、ヒューマン担当准教授 2名 継続雇用） （AI担当実務家准教授 1名 継続雇用） ② 4月 JAIST×Hコースのための教育環境整備 （AI向けPCサーバー 購入） （演習用測定装置 保守） ③ 4月 JAIST×Hコースのための教員の確保 （学外者が授業科目AI倫理IIとデータサイエンスIIの一部を担当）			

令和9年度	4月 先端科学技術研究科先端科学技術専攻高度情報専門人材育成コース 博士後期課程設置 10名増員（入学定員15名）		R9年度自己評価	リストから選択してください。
	① JAIST×Hコースのための教員の確保 （インタラクション担当教授 1名 継続雇用） （サイバーセキュリティ担当実務家教授 1名 継続雇用） （AI, ヒューマン, インタラクション担当准教授 3名 継続雇用） （AI担当実務家准教授 1名継続雇用） ② 4月 JAIST×Hコースのための教育環境整備 （AI向けPCサーバー 購入） （演習用測定装置 保守） ③ 4月 JAIST×Hコースのための教員の確保 （学外者が授業科目AI倫理IIとデータサイエンスIIの一部を担当）			
令和10年度	先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士後期課程 情報系組織 入学定員 44名 先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士前期課程 情報系組織 入学定員 119名		R10年度自己評価	リストから選択してください。
	① JAIST×Hコースのための教員の確保 （インタラクション担当教授 1名 継続雇用） （サイバーセキュリティ担当実務家教授 1名 継続雇用） （AI, ヒューマン, インタラクション担当准教授 3名 継続雇用） （AI担当実務家准教授 1名継続雇用） ② 4月 JAIST×Hコースのための教育環境整備 （AI向けPCサーバー 購入） （演習用測定装置 保守） ③ 4月 JAIST×Hコースのための教員の確保 （学外者が授業科目AI倫理IIとデータサイエンスIIの一部を担当）			
令和11年度	先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士後期課程 情報系組織 入学定員 44名 先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士前期課程 情報系組織 入学定員 119名		R11年度自己評価	リストから選択してください。
	① JAIST×Hコースのための教員の確保 （インタラクション担当教授 1名 継続雇用） （サイバーセキュリティ担当実務家教授 1名 継続雇用） （AI, ヒューマン, インタラクション担当准教授 3名 継続雇用） （AI担当実務家准教授 1名継続雇用） ② 4月 JAIST×Hコースのための教育環境整備 （AI向けPCサーバー 購入） （演習用測定装置 保守） ③ 4月 JAIST×Hコースのための教員の確保 （学外者が授業科目AI倫理IIとデータサイエンスIIの一部を担当）			
令和12年度	先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士後期課程 情報系組織 入学定員 44名 先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士前期課程 情報系組織 入学定員 119名		R12年度自己評価	リストから選択してください。
	① JAIST×Hコースのための教員の確保 （インタラクション担当教授 1名 継続雇用） （サイバーセキュリティ担当実務家教授 1名 継続雇用） （AI, ヒューマン, インタラクション担当准教授 3名 継続雇用） （AI担当実務家准教授 1名継続雇用） ② 4月 JAIST×Hコースのための教育環境整備 （AI向けPCサーバー 購入） （演習用測定装置 保守） ③ 4月 JAIST×Hコースのための教員の確保 （学外者が授業科目AI倫理IIとデータサイエンスIIの一部を担当）			

令和13年度	先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士後期課程 情報系組織 入学定員 44名 先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士前期課程 情報系組織 入学定員 119名		R13年度自己評価	リストから選択してください。
	① JAIST×Hコースのための教員の確保 (インタラクショ担当教授 1名 継続雇用) (サイバーセキュリティ担当実務家教授 1名 継続雇用) (AI, ヒューマン, インタラクショ担当准教授 3名 継続雇用) (AI担当実務家准教授 1名継続雇用) ② 4月 JAIST×Hコースのための教育環境整備 (AI向けPCサーバー 購入) (演習用測定装置 保守) ③ 4月 JAIST×Hコースのための教員の確保 (学外者が授業科目AI倫理IIとデータサイエンスIIの一部を担当)			
令和14年度	先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士後期課程 情報系組織 入学定員 44名 先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士前期課程 情報系組織 入学定員 119名		R14年度自己評価	リストから選択してください。
	① JAIST×Hコースのための教員の確保 (インタラクショ担当教授 1名 継続雇用) (サイバーセキュリティ担当実務家教授 1名 継続雇用) (AI, ヒューマン, インタラクショ担当准教授 3名 継続雇用) (AI担当実務家准教授 1名継続雇用) ② 4月 JAIST×Hコースのための教育環境整備 (AI向けPCサーバー 購入) (演習用測定装置 保守) ③ 4月 JAIST×Hコースのための教員の確保 (学外者が授業科目AI倫理IIとデータサイエンスIIの一部を担当)			
令和15年度	先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士後期課程 情報系組織 入学定員 44名 先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士前期課程 情報系組織 入学定員 119名		R15年度自己評価	リストから選択してください。
	① JAIST×Hコースのための教員の確保 (インタラクショ担当教授 1名 継続雇用) (サイバーセキュリティ担当実務家教授 1名 継続雇用) (AI, ヒューマン, インタラクショ担当准教授 3名 継続雇用) (AI担当実務家准教授 1名継続雇用) ② 4月 JAIST×Hコースのための教育環境整備 (AI向けPCサーバー 購入) (演習用測定装置 保守) ③ 4月 JAIST×Hコースのための教員の確保 (学外者が授業科目AI倫理IIとデータサイエンスIIの一部を担当)			

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	北陸先端科学技術大学院大学
-------------	-------	-----	---------------

2。申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3。申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☐ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☐ チェック	対象に該当しない	☒ チェック	
確認を受けている	☐ チェック					
対象に該当しない	☒ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	北陸先端科学技術大学院大学
-------------	-------	-----	---------------

⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）		
	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒	チェック

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	北陸先端科学技術大学院大学
-------------	-------	-----	---------------

⑨

機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑩

計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑪

国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時まで他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない

☒ チェック

⑫

教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑬

文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。

認定を受けている、又は対象に該当しない

☒ チェック

認定を受ける計画が進んでいる

☐ チェック

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	北陸先端科学技術大学院大学
-------------	-------	-----	---------------

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- ① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
JAIST×Hコースでは、地域においてもニーズが高い次世代AIの研究開発を行うことができる高度情報専門人材を養成し、網羅的かつ複合的に地域や企業が直面する課題に取り組むことができる人材を輩出する。北陸の国立4大学と企業・諸団体・行政機関等が共創する地域連携プラットフォーム「北陸未来共創フォーラム」（国立大学改革・研究基盤強化推進補助金）や、本学が独自に行っている北陸発の産学官金連携マッチングイベント「Matching HUB Hokuriku」を研究共創の場として活用し、北陸3県の自治体・地元企業との連携による研究指導内容の多様化・豊富化を図る。更に、今後、「Tech Startup HOKURIKU」（スタートアップ・エコシステム共創プログラム地域プラットフォーム共創支援）において自治体及びその外郭団体、地方銀行、経済団体などと連携し、4つの分野の共創的研究成果の展開先として、教員のみならず、本コースの大学院生のスタートアップを強力に推進する。 企業関係者等の実務家に授業科目の実施への参画を求めるほか、講義等で培った基礎的な知識を応用・展開し、課題解決能力を涵養するための場として、インターンシップの受入に幅広く協力を求めることとしている。また、教育内容が産業界等社会のニーズに応えるものとなっているかどうかを不断に見直すため、自治体、地域企業関係者等から意見を聴取し、その内容を適宜教育課程へ反映させる取組を進めるほか、学生の就職先としても、地域との連携をより一層進めることとしている。自治体、地域企業等は、本学にとって重要なステークホルダーであり、本コースへの社会人学生の受入や外部資金の受入などを通じて、人や資金の好循環システムを構築することを目指している。	申請時の計画に沿って、R6年度は次のような取り組みをした。 ・北陸未来共創フォーラム・マテリアル分科会・五感情報通信WGの活動 ・コース担当教員のMatching HUB Hokurikuへの参画 ・Tech Startup HOKURIKU（スタートアップ・エコシステム共創プログラム地域プラットフォーム共創支援）への参画（R7年度ステップ1に1名採択） また、これらの活動を通じて、北陸を中心とする国内企業との産学連携研究を進めている。特に、NEDOポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業に1件、産学融合先導モデル拠点創出プログラム（J-NEXUS）・北陸RDXに1件採択実績がある。 R7年度10月からコースがはじまることから、これにあわせてシームレスに ・企業関係者等の実務家に授業科目の実施への参画を求めること ・講義等で培った基礎的な知識を応用・展開し、課題解決能力を涵養するための場として、インターンシップの受入を進められるように準備している。	

- ② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学は、大学院のみの大学であるが、初等中等教育段階の学校との連携として、金沢大学が実施する高大接続理数教育プログラム「グローバルサイエンスキャンパス」（令和6年度以降は、金沢大学次世代科学技術チャレンジプログラム）に連携機関として協力し、地域で卓越した意欲・能力を有する高校生等を対象として、AIに関わる国際的な活動を含む高度で体系的な学修と実践の場を提供している。また、毎年、スーパーサイエンスハイスクールに採択されている地元の複数の公立高等学校におけるAI等の情報科学を含む理系分野での研究実施及び英語での成果発表にあたり、本学の留学生を派遣しているほか、小松市との包括連携協定に基づき、「ひととものぶりの科学館（サイエンスヒルズこまつ）」において青少年の理科離れ解消に向けた取組である「JAISTサイエンス&テクノロジー教室」を開催している。この他に、大学コンソーシアム石川の出張オープンキャンパスで、石川県内の中学生を対象とし、特に次世代AIをテーマに、将来の科学技術分野を支える若い世代の知的好奇心を醸成するアウトリーチ活動（模擬授業等）を計画している。また、地域社会の人々との交流促進を目指し例年行われる『JAISTフェスティバル』において、小学生を対象にした「かがく教室」を開催し、身近な話題を通して科学への興味を引き出すことができる企画を実施しており、令和5年度においては生成AIに関連したテーマを加えた。 今後とも、AI等情報科学分野に係る高度情報専門人材への要請に対応するため、初等中等教育段階の学校との間で、更なる連携強化を進めていくこととしている。	申請時の計画に沿って、R6年度は、大学コンソーシアム石川出張オープンキャンパス、JAISTフェスティバルを活用し、次のような取り組みをした。 ・星稜高等学校、生成AIの仕組み、2024/9 ・大聖寺高等学校、生成AIの仕組み、2024/7 ・大聖寺高等学校、AIと人間の学習の違いを学ぼう、2024/7/25 ・錦丘中学校、AIと人間の学習の違いを学ぼう、2024/6/28 ・地元小学生向け「かがく教室 最新タイリングでバズろう！」2024/10/26 また、他府県ではあるが、本コース関連の活動で ・依頼講義：大阪市立友洲中学校、生成AIと人間の学び、2024/12/23 ・共同研究：川越市立砂中学校：美術教育における生成AIを活用した対話的支援に関する研究 のような取り組みもした。 次年度は、金沢大学との連携を深めつつ、左記のような継続した活動を行う予定である。	

- ③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生について、先端科学技術専攻における令和5年度入学者の博士前期課程及び博士後期課程の女子学生比率は、それぞれ20.7%及び24.3%となっており、国立大学の工学系の令和5年度における平均値14.1%及び17.4%を大きく上回っている。今後更なる女子学生の確保に向けて、協定校である私立女子大学で学部生を対象に毎年説明会を実施する。 社会人学生について、令和5年度入学者の博士前期課程及び博士後期課程の社会人学生比率は、それぞれ30.5%、61.2%となっており、国立大学全体の平均（令和5年度学校基本調査（4月入学者対象））の4.4%、37.6%を大きく上回っている。本計画では、大学院大学としての特色を生かして、人文・社会科学出身者で、特にAI分野に関する修士号の取得希望者や、修士号保持者で業務上特にAI分野に関する修士号の取得希望者が修学できるよう、企業派遣等を推進するための方策として産学連携社会人コースを新設（令和7年度～）するほか、授業のハイフレックス化を進める予定である。また、留学生について、本学は開学以来、留学生の受入れを積極的に実施してきた結果、留学生の割合は約40%を占めている。入試において「海外在住者対象推薦入学特別選抜」を設けているほか、英語による講義科目を多く提供し、英語のみでの学位取得を可能としている。更に、学内の通知をすべて日英併記で行うなどキャンパスのグローバル化を図っている。加えて、現在3件の「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」等により多くの留学生が在籍しており、今後とも海外協定校からの受入れを積極的に行うことで更なるキャンパス内の多様性の向上を推進することとしている。	令和6年度に、主にASEANの協定校と実施する、JAIST・協定校接続プログラム（JUMP）の実施にあたり、11月から1月にかけて協定校（UKM,UNICOM、マシドン大）を訪問し、説明会を実施した。また、次のような関連国際会議も開催し、優秀な留学生獲得各活動を行った。 ・2024/10/17 インドネシアのUPIとの共催でJAIST-UPI Workshopを開催 ・2024/10/20 インドネシアのAMIKOMと共催で国際会議ICOIACT2024を開催 ・2024/9/25 インドネシア4th International Conference on Electrical Engineering and Computer Science (ICECOS) 2024にてInvited Speakerとして参画（Deepfake speech detection: approaches from acoustic features related to auditory perception to DNNsのタイトルで講演） また、優秀な学生獲得（日本人学生、女子学生など）の一つとして、未来創造イノベーション博士人材支援プログラム（SPRING）及び未来創造次世代AI博士人材育成プログラム（BOOST）を実施している。また、優秀な留学生獲得の一環として、国費留学生獲得事業（特別枠）にも採択になり、今後3年間は博士前期5名、博士後期3名を獲得できる。 令和7年度から、企業派遣等を推進するための方策として産学連携社会人コースを新設する。 女子学生獲得に関しては留学生獲得の中で実現しているが、今後は日本人学生（女子学生）の獲得にも力をいれていく予定である。	

- ④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では、教育内容の豊富化・多様化を図るため、国内外の大学との単位互換や研究指導の委託等を通じた交流を進めているほか、本学の強みを提供するため、他大学・高専からの学生の受入を積極的に行っており、情報科学分野においても、学生の相互交流の取組を推進している。 本計画においては、海外の大学との学術交流協定に基づき、特にインドネシア、タイの大学を中心に連携講座を設置し、教育・研究面での交流等の連携強化を図るとともに、留学生受入事業である「さくらサイエンスプログラム事業（JST）」等を利用して、学部生をインターンシップとして短期間受け入れ、大学院の科目を先取り学修することができる制度を設けることとしており（令和7年度～）、JAIST×Hコースにおいても、これらの制度を積極的に活用する予定である。また、ドイツ・ドレスデン工科大学等とは協働研究指導プログラム（博士後期課程）による交流実績もあることから、本コースに在学する学生も博士後期課程在学中には協定に基づき海外留学に積極的に参加し、海外での経験を重視した研究活動を実施することができる。 国内の協定校及び高等専門学校についても、これらの機関の「教育連携アドバイザー」（令和5年度現在118名委嘱）を通して本学との連携を深め、学部生及び高等専門学校生のインターンシップやサマースクールでの受入れ及び大学院の科目の先取り学修を推進することとしている。	R6年度に、主にASEANの協定校と実施するJAIST・協定校接続プログラム（JUMP）を開始した。このプログラムに基づき協定校の学部3、4年生のインターンシップ受入れを実施した。実績は次の通りである。 ・タイ・マシドン大学から10名のインターンシップ学生受入れ ・マレーシア UKMから3名のインターンシップ学生受入れ また、JUMPとは別に本学の提携先であるフランス・Telecom SudParisから1名、オーストリア・インスブルック大学から1名、タイ・チュロンコン大学から1名のインターンシップ学生受入れ実績がある。今後は、JUMPを中心に拡大していく予定である。ドイツ・ドレスデン工科大との協働研究指導プログラムに関する活動を実施しており、R7年度受入れ学生の海外留学を促進していく予定である。 次年度から高専などへの展開を検討する。	

大学名	北陸先端科学技術大学院大学	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
-----	---------------	------	-----------------

1. 本事業対象となる情報系組織の状況

1-1.博士課程

＜合計＞

[illegible]

大学名	北陸先端科学技術大学院大学	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
-----	---------------	------	-----------------

1-2. 修士課程

＜合計＞

[illegible]

大学名	北陸先端科学技術大学院大学	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
-----	---------------	------	-----------------

2-2. 修士課程

[illegible]

大学名	北陸先端科学技術大学院大学	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
-----	---------------	------	-----------------

3－3.学士課程

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人																			
		入学者数	人																			
	その他の学期	入学定員	人																			
		入学者数	人																			
	入学者合計	入学定員(A)	人	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	収容定員等	収容定員(C)	人																			
		編入学定員	人																			
		在籍者数(D)	人																			
		編入学者数	人																			
		収容定員充足率（D/C）	倍																			

4.外部資金の状況（全学）

年度		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	1,954,263																		

特記事項